

エターナル・ラブ・イスラエル ☆ニュースレター 1号☆



- 事務局：〒226-0027 横浜市緑区長津田 7-17-16-503
事務局長：三上章予
- ホームページ：<https://eternalloveisrael.amebaownd.com>
- メール：eternalloveisrael@gmail.com
- 銀行口座：三菱東京 UFJ 銀行 武蔵新城駅前支店
普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル
代表：宮本 純子（シャローム教会牧師）

☆セカンド・ステージの始まり☆

宮本純子

みなさま。10年間という長い期間、大変ごぶさたしておりました。



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。（エレミヤ 31：3～4）」

●昨年、神様が、エターナルの活動を建て直してくださいました。まさしく「目覚めなさい！起きる時が来たのです！」と、神様からの語りかけを受けて、エターナルは10年間という眠りから覚めました。私の思いではなくこの働きは主の働きです。その経緯を簡単にご報告させていただきます。

●2017年1月、私は地域の方々を集めてサークルを開いていました。その時に「私たちは教会に行ったこともないし、聖書も読んだ事もないので、ぜひ教会をつくってください。」と、とても熱心に要望されました。私は、「シャローム教会」と名付けた家の教会をスタートさせました。主に心から感謝します！

●2017年5月、秋に開催の LGJE のカンファレンスで、「エターナル・ラブ・イスラエルが今までしてきたユダヤ人伝道の働きの証しをしてください。」と、依頼されました。神様が、エターナル・ラブ・イスラエルのセカンド・ステージを用意してくださっていることがわかりましたので、お引き受けしました。主に心から感謝いたします！

●ファースト・ステージで事務局をしていた三上章予さんが事務局に。同じく以前事務局をしてくださっていた秋元憲子さんがスタッフとして名古屋支部を引き受けてくれました。フラー神学校で長年ユダヤ人伝道について学んでおられた村井万里先生もアドバイザーになってくれました。主に心から感謝いたします！

●エターナル・ラブ・イスラエルのホームページやブログも出来ました。主に感謝いたします！

●2017年8月2日、シオンとの架け橋、聖書に学ぶ会主催の東京セミナー（講師：ヨセフ・シユラム師）にてエターナル・ラブ・イスラエルのセカンド・ステージ開始の宣言の挨拶をさせていただきました。主に心から感謝いたします！

●8月18～19日、早速、秋元憲子さんと一緒に、ユダヤ人観光客が多く訪れるという岐阜県の高山と杉原千畝記念館のある八百津町にヘブライ語のトラクトを持って伝道と視察に行ってきました。高山の観光案内にヘブライ語の地図がありました！主に心から感謝いたします！

●2017年9月、私が今まで水彩画で描いてきたイスラエルの聖地画をポストカードに作成することを決意。イーグレイプより「聖地画ポストカード」を11月に出版。主に感謝いたします！

●2017年11月13日～16日、和歌山と大阪での「LGJE 東アジアユダヤ人伝道カンファレンス」にて、秋元憲子さんがエターナルの証しをしてくれました。18日の東京フォーラムでは、私、宮本純子が証しをさせていただきました。すべてのことを主に心から感謝致します！

2018年1月7日 07時30分 クリスマントウデイに掲載

日本でユダヤ人に福音を エターナル・ラブ・イスラエルの宮本純子さんが活動再開

記者：内田周作



ユダヤ人露天商の女性と共に。1990年代、駅前や商店街でアクセサリーなどを販売する外国人がおり、その多くがユダヤ人だった。(写真:エターナル・ラブ・イスラエル提供)

宮本純子さん(シャローム教会牧師)は、ユダヤ人伝道の働き「エターナル・ラブ・イスラエル」を1993年から始め、イスラエル宣教師だった期間も含めて14年間、ユダヤ人に福音を伝えてきた。2007年から結婚と子育てのため、一時休止していたが、昨年夏、10年ぶりに活動を再開した。

日本でユダヤ人に福音を

現在、法的な規制で見かけなくなったものの、1990年代、駅前や商店街でアクセサリーなどを販売する外国人がおり、その多くがユダヤ人だった。母国イスラエルでの兵役を終えた若いユダヤ人が、世界中を旅しながらストリート・ショップを開いていたのだ。

宮本さんは彼らにヘブライ語のトラクトや聖書、また夏には缶ジュース、冬にはホッカイロなどを手渡し、福音を伝える活動を続けてきた。日本ではヘブライ語を目にする機会はめったにないため、とても喜ばれたという。

その後、宮本さんは聖契神学校で学び、卒業後は世界宣教研修センター(WMTC)の第1期生として半年間、訓練を受けた。そして99年、宣教師としてイスラエルに渡る。

エルサレム旧市街にあるクライストチャーチは、150年以上前に、聖公会のユダヤ人伝道団体CMJ (Church's Ministry Among Jewish People)によって設立された教会だが、宮本さんはそのゲストハウスで奉仕をしながら、個人伝道や路傍伝道をした。日本で知り合ってから帰国していたユダヤ人とも積極的に連絡を取り、中には現地のコングリーゲーション(教会)につながって洗礼を受けた人もいたという。

ユダヤ人の痛みを知るために

宮本さんが教会に通うようになったのは思春期のこと。中学1年の夏に両親が離婚し、転校先の学校でひどいいじめに遭う中、近所にあった教会を見つけ、礼拝に出てみた。そこで、「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」(ヘブル13:5、新改訳)という聖書の言葉に出会い、毎週、教会に通うように。そして、16歳の時に洗礼を受けた。

いじめは高校まで6年間も続いたが、人々からあざけられたキリストの姿を思いつつ、どんなに嫌なことがあっても学校は休まなかった。そして、自分を十字架につけた人々のために赦(ゆる)しを求めたイエスのように生きたいと願い、どんなにいじめられても笑顔で耐え、いじめっ子のために祈った。

しかし、悲劇は続いた。高校卒業後、幼い頃からの友人が飛び降り自殺をし、スーター被害に遭っていた母親も殺され、宮本さんがかわいがっていた愛犬も生き埋めにされた。一度に多くの大切なものを失い、抜け殻ようになった宮本さんは、死に場所を探すような思いで、母親と来た思い出のある遊園地を訪れた。観覧車に乗り、ゴンドラが頂上に達したとき、車も建物も人間も何もかも小さく見えた。その時、ふと思った。

「神様はこの地上のすべてをご存じだ。人間がいかにか罪深いかも。それなのに神様は、こんなちっぽけな罪深い一人一人を愛しておられる。母を殺した犯人のことも。そして、私のことも」

そして、自分が経験したすべての痛みは、迫害に満ちた悲しい歴史を持つユダヤ人を心から知ることができたと気付いたという。宮本さんが通う教会では、長年、ユダヤ人の救いのために祈っており、宮本さんの心にはいつもユダヤ人への思いがあったのだ。

「私が受けた試練の数々は、ユダヤ人の心に今も深く残る痛みや悲しみを理解するため、神様から与えられた大きなプレゼントでした。すべては神様の深い摂理だったと心から感謝しています」



エルサレム旧市街を背景に(写真:同提供)

セカンド・ステージの始まり

10年の休止期間を経て「セカンド・ステージの始まり」と意気込む宮本さん。昨年11月には、イスラエルの名所を描いた聖地画のポストカードを発売した。それまで1年に1枚ずつ、宮本さんが時間をかけて描いてきた作品だ。

今後はユダヤ人観光客にヘブライ語のトラクトを配り、留学や観光で来日するユダヤ人のホストファミリーとなる活動を中心に行うという。日本人がユダヤ人を伝道する利点について、宮本さんは次のように話す。



宮本純子さん自身が描いた聖地画のポストカード。7枚1セット500円(税別)で「イーグレイブ」から昨年11月に発売された。(画像:同提供)

「日本はユダヤ人にとって遠い国で、日本人がユダヤ人を迫害した歴史もないため、アプローチしやすい。そして、日本は仏教や神道の国という印象が強いため、『私はクリスチャンです』と言うと、『なぜ日本人なのにイエスを信じるの?』と質問されます。こうした質問の受け答えから伝道の機会が与えられるのです」

活動が軌道に乗れば、メシヤニック・ジュー(ユダヤ人クリスチャン)を講師とした講演会やイスラエルのための祈禱会も開催する計画だ。また志願者がいれば、イスラエルに宣教師を派遣し、自身の経験を生かしてサポートしていきたいと話す。

東アジア初、日本でユダヤ人伝道の国際会議 12の国・地域から参加

クリスチャントゥデイ 記者：内田周作



「2017年 東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンス」の東京・公開フォーラムには、韓国や中国、イスラエル、米国など計12の国と地域から来日した海外からの参加者を含め、約130人が参加した=18日、お茶の水クリスチャン・センター(東京都千代田区)で

ユダヤ人伝道をテーマにした東アジア初の国際会議「2017年 東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンス」が13日から15日まで、和歌山市の近畿福音和歌山ルーテル教会(チャールズ・クリンゲンスミス牧師)で開催され、一般向けの公開フォーラムが16日に大阪で開かれた。また、東京での公開フォーラムも18日、お茶の水クリスチャン・センター(東京都千代田区)で行われ、約130人がユダヤ人伝道のビジョンを分かち合った。韓国や中国、イスラエル、米国など計12の国と地域から、ユダヤ人伝道団体の代表者らも参加した。

この会議を主催したのは、ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会(LCJE)日本支部。1974年、全世界の福音主義指導者がスイスのローザンヌに集まり、世界宣教会議を開いたことに端を発する「ローザンヌ運動」の継続的な働きだ。2015年、エルサレムで開催されたLCJEの国際会議にクリンゲンスミス氏が参加したとき、日本での開催を思い立ち、今年初めて実現した。

まず午前は、各国におけるユダヤ人伝道をめぐる神学教育について、次の4人が発表した。韓国・白石(ペクソク)神学校校長でアジア神学協議会(ATA)韓国支部議長のキム・ジンソプ氏。イスラエルで中国人向けの旅行ガイドを行うシンガポール出身のケニー・リム氏。米ユダヤ人伝道団体「ツェダカ・ミニストリーズ」会長のエイミー・ダウニー氏。お茶の水聖書学院教務主任の福井誠氏(日本バプテスト教会連合玉川キリスト教会牧師)。

福井氏は、日本の神学校が持つ2つの課題を紹介した。1つは、ヘブライ語やギリシャ語の習得など、基礎教育には多くの時間が割かれるが、伝道・牧会上の実際的な教育が十分でないこと。もう1つは、講師が一方的に教える講義スタイルの授業に終始していること。改革を求める声もあるが、神学教育の現場では教えることがすでに多過ぎる上に、伝道・牧会上の実践教育も充実させ、さらにユダヤ人伝道について盛り込むのは難しいという。

「日本では、ユダヤ人伝道に熱心な人と、まったく関心を持たない人との温度差が激しい。日本人には、ユダヤ人を含めた世界宣教に対する正しい認識と霊的な熱心さを持つことが非常に必要だ」と福井氏は問題提起した。



パネルディスカッションの発題者。左から、韓国・白石(ペクソク)神学校校長のキム氏、米ユダヤ人伝道団体「ツェダカ・ミニストリーズ」会長のダウニー氏、イスラエルで中国人向けの旅行ガイドを行うリム氏、お茶の水聖書学院教務主任の福井氏。

その後、4人によるパネルディスカッションが行われた。「限られた神学教育の中で、どのようにユダヤ人伝道を教えるか」とのクリンゲンスミス氏の問い掛けに、「神学校の教授でもイエスのユダヤ的ルーツをあまり理解していない者がいる」とダウニー氏が指摘すると、「福音を理解するためには、まずイエスがユダヤ人であったことに思いを向けるべき」とリム氏、「神学校の教師の問題は大きいと思う」と福井氏も同調した。

キム氏は多くの神学生を教えてきた経験から、「聖書の全体像を教えることが重要。全体像を捉えれば、イスラエルを排除することはできない」と語った。また福井氏も神学教育の充実を訴えた。

「牧師は人の人生を左右する重要な仕事。神学教育は通常4年だが、医学教育と同じ6年は必要ではないか。さらに、卒業後も継続して生涯教育が求められる。ただ、日本の村社会的な文化がキリスト教界にもあるため、充実した神学教育のためには、神学校間のネットワーク作りをしなければならない」



LCJE国際コーディネーターのメルニック氏(左)

午後はまず、LCJE国際コーディネーターでロシア系ユダヤ人伝道に従事しているジム・メルニック氏が基調講演を行った。

今年、宗教改革500年を迎えたが、マルティン・ルターは数々の功績がある一方、ユダヤ人への差別的発言もしており、それが今のクリスチヤンの世界観にも影響していると話した。また、ドイツ最大のプロテスタント教派であるドイツ福音主義教会(EKD)が昨年、「世界宣教はすべきだが、ユダヤ人には伝道するべきでない」との声明を発表したことを取り上げた。これはホロコースト(ナチスによるユダヤ人大量虐殺)への罪悪感から来ているとし、過去の歴史に縛られず、ユダヤ人に福音を伝えることが大切だと訴えた。

その後、参加団体の活動紹介が行われ、日本人による報告もあった。京都でユダヤ人旅行者向けの無料ゲストハウス「バルハバ京都」を運営する石井田晶二氏(シオンとの架け橋)。世界各国のユダヤ人ろう者に向け、数カ国の手話で伝道を行う「メシアの家」代表の網本善年氏。これまで3千人余りのユダヤ人に福音を伝えてきたエターナル・ラブ・イスラエルの宮本純子氏(シャローム教会牧師)。イスラエルを含め世界各国にマンガ聖書を送り届けている新生宣教団の田倉誠一氏だ。

石井田氏によると、近年、観光などで来日するユダヤ人が増えているという。イスラエルのパスポート保持者だけでも、2010年までは1万~1万5千人で推移していたが、ここ5年余りは毎年増加し、今年は3万4千人が見込まれる。イスラエルには徴兵制があるが、退役後は海外旅行をする人が多く、ユダヤ人伝道は、観光で訪れたユダヤ人も重要な対象になるという。



増加する来日イスラエル人(ユダヤ人)を示す「シオンとの架け橋」の石井田氏(左)

続いて、イエスを信じて救われ、今はユダヤ人伝道団体の代表として活動しているメシニックジュー(ユダヤ人クリスチヤン)の3人が講演を行った。そのうち2人はニュージーランドで働きを行っており、主にユダヤ人観光客を対象にしている。その1人、オムリ・ヤアコボビッチ氏は、自身も20年前にニュージーランドを訪れた際、宿泊先のオーナーがクリスチヤンだったことから回心した。それから3年後にユダヤ人観光客向けのゲストハウスを広げる働きを始め、現在、そのネットワークは世界中に広がっている。「海外に行かなくても伝道ができる。さらに家を出なくても伝道ができる」とアピールした。2020年に東京オリンピックが開かれる日本では、開催までの3年間に宿泊場所を提供してくれる500人を探す計画だという。

最後にクリンゲンスミス氏が次のように語って公開フォーラムは幕を閉じた。

「今日学んだことをぜひ教会へ持ち帰ってください。そして、祈ってください。私たちは、自国に来ているユダヤ人を見る目、愛する愛、語り合う口と耳、そして彼らに仕える手、また共に歩く足が必要なのです」

☆LCJE 東アジアユダヤ人伝道カンファレンスでの恵み

秋元 憲子



昨年 11 月、LCJE 東アジアユダヤ人伝道カンファレンス和歌山と大阪で「東京でのユダヤ人伝道の試み」と題して、エターナル・ラブ・イスラエルの活動を証しさせていただきました。

当時エターナル・ラブ・イスラエルは、道端でユダヤ人がアクセサリーを売っていた時代に、ヘブライ語のトラクトを渡してユダヤ人に伝道していました。その後、私たちはユダヤ人に蒔いた種の実を見ることができたのです。

エルサレムで二人の青年がバプテスマを受けてCongregationに繋がっていました。また、エルサレムの私たちが出席していたメシアニック・Congregationで、東京で伝道していた青年が救われ、続いて彼の母親も救われていたことがわかったのです。これは一部であり、主はもっと多くの魂を救いに導いてくださっていると思います。主に感謝します。

カンファレンスでのアジア・太平洋地域からの宣教報告は大変興味深いものでした。彼らは、世界を旅するユダヤ人に無料で宿泊場所を提供するホステリング、日帰り旅行者のガイドなどして伝道しています。ユダヤ人旅行者と交流をもち伝道しています。伝道のチャレンジを受けました。

11 月 20 日にはシオンとの架け橋の高山訪問に同行させていただきました。高山は、イスラエルから年間約 3 万人の観光客が来日し、うち約 1 万人が訪れる町です。前述のカンファレンスのゲストで、「ホステリング・イスラエリ・トラベラーズ(HIT)」というホステリングのネットワークを運営しているオムリ・ヤアコボビッチ氏の案内でした。

高山祝福教会(奥深山井作先生)を訪問して交流会がもたれました。ヘブライ語の賛美、ヤアコボビッチ氏がメシアニックジューでしたのでその救いの証、HIT の働きの紹介もありました。初めてのメシアニックジューの訪問、ユダヤ人伝道の話に教会の方々も少し当惑されたことと思います。でも温かくもてなしてくださり本当に感謝しました。

お祈りをありがとうございました。エターナル・ラブ・イスラエルは、セカンドステージを踏み出しました。お祈りしながらユダヤ人伝道に共に励んでいきましょう。

☆エターナル・ラブ・イスラエルの今後の働き

◎ユダヤ人観光客に福音を伝える



知っていましたか？今、イスラエル人の中で日本の観光地としての人気が高いそうです！

イスラエルまで行かなくても、多くのイスラエル人が毎年日本に来てくれる時代なのです！これはユダヤ人伝道の良いチャンスです！

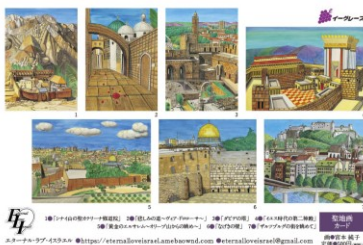
観光地だけではなく、あなたのすぐ近くにもユダヤ人がいるかもしれません。もしお近くにユダヤ人の方がおられましたらご連絡ください。エターナル・ラブ・イスラエルは、ヘブライ語と英語のトラクトをそろえています。観光地に行ってユダヤ人に伝道することも、無料で観光ガイドをしながら伝道することもできるかもしれません。実践しながら臨機応変に、日本で出来るユダヤ人伝道をしていきたいと思えます。

◎ゲストハウスやホストファミリーとして

今、日本では外国人観光客が増えたので、民泊や外国人観光客のことがよくテレビで紹介されています。ゲストハウスやホストファミリーとしてユダヤ人を受け入れて一緒に生活しながら福音を伝えていきたいと思っています。ゲストハウスとして受け入れてくださる方、ホストファミリーになってくださる方は、ぜひご連絡ください。みなさまのご協力をよろしくお願い致します。

☆「聖地画ポストカード」宮本純子画 聖句入り7枚 ¥500円

イーグレープより発売しました！



一枚を一年がかりで、祈りをこめて描きました。

ぜひお買い求めください。

ご注文は、メール eternalloveisrael@gmail.com

もしくはお電話 090-8729-0856 を頂ければ感謝です。

何卒よろしくお願い致します。

☆祈りのリクエスト☆

「エルサレムの平和のために祈れ。(詩篇122:6)」

●昨年、アメリカのトランプ大統領がテルアビブにあるアメリカ大使館をエルサレムに置くことを宣言したためイスラエルでは抗議デモが起きています。神様のご計画、主の御心だけがなりますように。

●世界中の政治的指導者たちが救われて、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進めることが出来ますように。

●日本とイスラエルの友好関係がさらに深まり、日本がイスラエルを祝福する国となり、世界の平和の架け橋となりますように。

●日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために、神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。ユダヤ人伝道の重荷を持つ後継者たちがたくさん起こされますように。

●神の選民ユダヤ人が救われることは神様の御心であり、とても大切なことです。日本で多くのユダヤ人がイエス・キリストと出会い、救われますように。トラクトを用いてくださるように。

☆エターナル・ラブ・イスラエル 決起集会を開催



4月1日(日)午後3時から5時

講師：ハナン・ルカス師

イスラエル・メシヤニック・ジュー連合の議長。

ベテスタ・アッセンブリー教会牧師(イスラエル・ハイファ)

通訳：石井 秀和 師

「預言的視点から見た主の例祭(レビ記23章)」

☆参加費無料 (席上献金あり) ぜひみなさまご参加ください！！

☆会場：アットビジネスセンター池袋駅前別館 603号室



●会場は本館ではなく別館です。

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-6-4

伊藤ビル 6F 603号室

■池袋駅(東口)より徒歩30秒

※池袋駅(東口)を出て「LABI 日本総本店」の左隣。建物のエントランスは、明治通沿(「ZARA」の入口を横切った右手)にあり、茶色の『会議室』の置き看板が出ています。

☆使徒的実現チャーチ(重枝覚子牧師) 4月1日(日)午前10時30分～主日礼拝

メッセンジャー：ハナン・ルカス師 タイトル「我らの過越の小羊なるキリスト」

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-27-2 ひめゆりビル B1

JR 中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」北口から徒歩5分 TEL：0422-27-1728

info@kingdomcafe-yogen.com

●12時から過越の祭りのお食事会を予定しています。

☆献金のお願ひ☆

このニュースレターは、エターナル・ラブ・イスラエルを支えてくださる方々にお送りさせて頂きました。エターナル・ラブ・イスラエルは、まったくないもないゼロからスタートして、今は、赤字数十万円です。主が必ず与えてくださる。神様が必ず必要を満たしてくださると信じています！ユダヤ人伝道は、とても大切な働きです。「エルサレムの平和のために祈れ。おまえを愛する人々が栄えるように。

(詩篇 122:6) 」どうか再開したばかりのこの小さな働きを覚えてください。

お祈りとご支援、献金をどうぞよろしくお願ひ致します。

捧げてくださるおひとりひとりの上に主の祝福が豊かにありますよう心からお祈り致します。すべてのことを神様に心から感謝致します。